

第 17 回日本在宅医学会大会 シンポジスト 抄録集・ホームページ掲載用原稿

シンポジウムテーマ		「生きかたー逝きかた」を支える施設でのみとり						
開催日	2015 年 4 月 26 日(日)		時間	09:00-10:30		収容人数	500 名	
講師情報	ふりがな	姓	かわかみ		名	しゅういち		
	ご芳名		川上			秀一		
	ご所属		医療法人 明輝会 内村川上内科					
	部署					役職	院長・理事長	

演題名(80 字以内)

有床診療所を中心とした医療・介護ミニ複合体の行う施設看取り
長く診てきた在宅患者の最期を有床診療所だけでは賄えない

ご略歴(300 字以内)

1985 年鹿児島大学医学部卒業、同年鹿児島大学旧第二内科入局、1992 年国民健康保険高原病院副院長（宮崎県）、2000 年医療法人明輝会内村川上内科院長、2014 年医療法人明輝会理事長

講演概要(1000 字以内)

医療法人明輝会是有床診療所を中心とした医療・介護ミニ複合体を形成している。その中に 7 ユニット 3 つのグループホームがあり、その入居者は主に在宅医療を受け、最期をグループホームで迎えるか、他医療機関で迎えることになる。グループホームで看取られた患者の平均入居期間は約 4 年 8 か月で最短 8 か月、最長 9 年である。このようにグループホームに長く入居すると、同居者やグループホーム介護者と家族のような関係になるため、患者家族は、できることならば住み慣れたグループホームで最期を迎えさせたいと施設での看取りを希望するようになる。このような背景があり、当法人は医療職と介護職の連携が図りやすいという利点を活かしながら積極的に看取りを行ってきた。グループホームでの看取り数を他医療機関での看取り数を加えた総死亡数で除した割合を看取り率と考えると、当法人グループホームでの看取り率は 35% 以上となる。この数字の意義は不明だが、グループホームで一度看取りを経験すると、看取りに対する介護職の思いが変わったことは間違いない。また、当法人の MS 法人や民間企業の運営する高齢者向け賃貸住宅においても看取りを行っているが、同様の傾向がみられる。

当法人の母体である有床診療所の在宅患者としてフォロー中の約 250 名は急変時、当法人診療所に入院を希望するケースが多い。しかし、入院ベッド数は 19 床と限りがあるため、入院治療をするか、在宅医療で治療するかを十分に検討する。このような事情もあり、当法人は施設看取りに積極的に取り組んできた。これからの多死社会において、施設看取りが増えることは確実であり、そうでなければ多死社会を支えることができない。しかし、施設見取りを行っている現場にはいくつかの課題があり、医療職と介護職が連携しながら解決していく必要があると思われる。